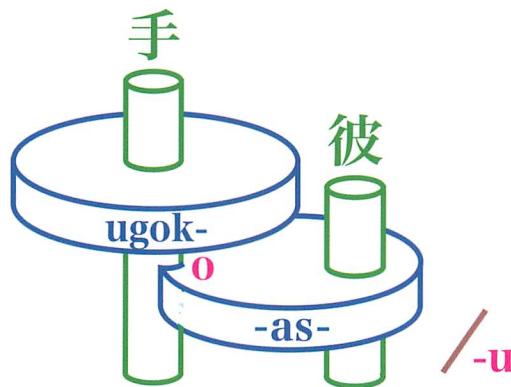


# 日本語態構造 の研究

—日本語構造伝達文法 発展B—

今泉喜一 著



晃洋書房

# 日本語態構造の研究

——日本語構造伝達文法 発展B——

今泉 喜一 著

晃 洋 書 房

## まえがき

『日本語構造伝達文法・発展 A』を2003年8月に出してから、すでに6年が経過した。『日本語構造伝達文法・発展 B』は2007年ごろには出したいものとの思いはあったが、それはかなわなかった。以前は研究に当てていた夏休みが実質的になくなつたということもあり、また、2005年に体調の変化があつて、健康を気遣うようになったことも大きい。しかし、ともかく、『発展 B』を出すための準備は進めていた。

2008年3月に博士号の申請を決意し、『発展 B』の前半部分を「日本語態構造の研究」と題する論文にまとめた。これを『日本語構造伝達文法』(2000, 2005改訂), 『日本語構造伝達文法・発展 A』(2003)とともに杏林大学大学院・国際協力研究科に提出し、博士号申請を行つた。

論文審査に当たつては、主査に日本語学の金田一秀穂教授が、副査に日本近現代史の楠家重敏教授、近代英文学の原田範行教授がついてくださり、外部審査員として、日本語教育文法の野田尚史教授（大阪府立大学）が加わつてくださつた。この錚々たる先生方による審査の結果、論文は合格し、2008年9月に博士号（学術）をいただくことができた。

博士号を申請しようと思い立つたのは、同僚で日頃研究上の情報を交換し合い、国語学的観点からのアドバイスをいただいている日本語学の玉村禎郎教授からいただいたご示唆が契機であった。また、ご示唆に触発されて、還暦の記念としたいという思いがふくらんだことも決意につながつた。

今回出版する『日本語態構造の研究（日本語構造伝達文法・発展 B）』は『発展 B』として準備していたものの前半分を独立させてまとめたものとなつた。これは博士論文の出版という意味を持つ。ただ、日本語構造伝達文法シリーズの『発展 B』とするにあたつて、章節番号に「B」を加えたほか、関連表現を改めた。また、論文提出後に考察が進んだ部分もあり、その部分を加筆・修正した。

なお、唐突ではあるが、ここで特に言及しておきたいことがある。国語学に

は多くの研究者による長い研究の歴史があるので、いまどき「新発見」など信じがたいことであるかもしれないが、本研究において、日本語の根本的認識に関わる非常に重要な形態素「-ur-」（許容態）の発見があった。特筆しておきたい。

『日本語構造伝達文法 改訂05年版』

『日本語構造伝達文法 発展A』

の2冊は「日本語構造伝達文法」のホームページで読めるようになっている。

<http://www012.upp.so-net.ne.jp/nikodebu/laboratory/index.htm>

## 目 次

### まえがき

序 章 .....	<i>I</i>
BJ1 対照研究 (1)	
BJ2 本書における研究について (1)	
BJ3 「日本語構造伝達文法」とは (2)	
BJ4 「態」とは (3)	
BJ5 本書の研究の学術的意義 (5)	
BJ6 本書の要旨 (7)	
B I 部 原因態・許容態 (11)	
B1 章 出来事は4種類 .....	<i>I3</i>
B1.1 構造伝達文法の視点 (13)	
B1.2 用語の整備 (14)	
B1.3 交点、主体、属性 (14)	
B1.4 接点、客体 (15)	
B1.5 「出来事」は「行為」「有意無制」「無意有制」「事態」のいずれか (16)	
B2 章 原因態 -(s)as- .....	<i>21</i>
B2.0 原因態 -(s)as-「直接他動／指示他動／結果招来／不阻止」 (21)	
B2.1 直接他動 (23)	
B2.2 指示他動 (24)	
B2.3 結果招来 (25)	
B2.4 不阻止 (28)	
B2.5 原因態 -(s)as- と中国語表現との対比 (30)	

B3 章 許容態 -e-	33
B3.0 許容態 -e- 「他動／自然生起／可能／態補強」	(33)
B3.1 他 動	(33)
B3.2 自然生起	(34)
B3.3 可 能	(36)
B3.4 態 補 強	(38)
B3.5 似て非なる -e-	(40)
B3.6 -e- に関する先行研究	(41)
B4 章 複合原因態 -(s)as-e-	45
B4.0 複合原因態 -(s)as- への -e- の添加	(45)
B4.1 -(s)as-e- が -(s)as- の意味をそのまま保つ	(45)
B4.2 -(s)as-e- が原因態に可能の意味を与えるもの	(47)
B4.3 -(s)as-e- が -(s)as- の意味を持ち、また可能の意味ももつ	(49)
B4.4 「A を B(結果)にさせる」の特殊性	(52)
B4.5 記号化による簡潔記述	(54)
B II 部 許容態の語幹化（二段・一段化） (57)	
B5 章 動詞二段活用の発生と一段化	59
B5.1 動詞二段活用の一段化とは	(59)
B5.2 先行研究と問題のありか、本研究との関係	(61)
B5.3 本文法でのとらえ方の概要	(64)
B5.4 態表示形態素 -e-	(65)
B5.5 動詞の二段活用化（許容態の発生：2形語幹）	(65)
B5.6 動詞二段活用の進展（3形語幹化）	(67)
B5.7 動詞二段活用の一段化（2形語幹化、そして1形語幹化）	(69)
B6 章 許容態の音声的前提	71
B6.1 動詞の態の通時的展開	(71)
B6.2 古代動詞の態拡張に使用された形態素	(72)

B6.3 音声学的前提 (72)	
<b>B7 章 許容態の発生と展開 ..... 81</b>	
B7.0 第0期 許容態が現れ、態表現の展開が始まる (81)	
——見ゆ、聞かゆ——	
B7.1 第1期 連用用法において許容態が文法化する (86)	
B7.2 第2期 連用用法で許容態が語幹の一部となり新語幹発生 (87)	
B7.3 第3期 連体、已然が -ur- 形式で 許容態形式を表示することになる (94)	
B7.4 第4期 奈良時代 (96)	
——許容態表示3通り…同一語の新語幹3通り——	
B7.5 第5期 平安時代 (100)	
B7.6 第6期 鎌倉時代 (100)	
——同一機能異形式の統一化開始——	
B7.7 第7期 江戸時代 (106)	
——同一機能異形式の統一化実現…一段化実現——	
B7.8 「くだくる」の連体機能を担う形式は 「くる」ではなく「-u」 (106)	
 B III部 態拡張による新動詞の発生 (107)	
<b>B8 章 動詞態拡張24方式 ..... 109</b>	
B8.1 動詞の態を拡張する形態素 (109)	
B8.2 2種類の態 (110)	
B8.3 原動詞に関して (112)	
B8.4 變格活用動詞 (118)	
B8.5 態拡張の記号表示 (121)	
B8.6 「-e- による態拡張」という記述の意味 (124)	
B8.7 態拡張の動詞別状況 (124)	
 <b>B9 章 動詞態拡張各方式 ..... 135</b>	
B9.0 態拡張の各方式 (135)	

- B9.1 方式 [1] 無変化 (136)
- B9.2 方式 [2] 態変換 -e- による態変換 (140)
- B9.3 方式 [3] 態補強 -e- / -i- による態補強 (148)
- B9.4 方式 [4] 新自動詞形成(1) -ar- による新自動詞形成 (158)
- B9.5 方式 [5] 新自動詞形成(2) -ar-e- による新自動詞形成 (162)
- B9.6 方式 [6] 新他動詞形成(1) -as- による新他動詞形成 (166)
- B9.7 方式 [7] 新他動詞形成(2) -as-e- による新他動詞形成 (170)
- B9.8 方式 [8] 新他動詞形成(3) -s-e- による新他動詞形成 (174)
- B9.9 方式 [9] 対自原因(1) -as- による敬語動詞形成 (178)
- B9.10 方式 [10] 対自原因(2) -as-e- による敬語動詞形成 (182)
- B9.11 方式 [11] 新自動詞形成(3) -ay-e- による新自動詞形成 (186)
- B9.12 方式 [12] 非o格客体の主体化 (192)

あとがき (199)

主要参考文献 (203)

索引 (207)

- |     |                                              |
|-----|----------------------------------------------|
| コラム | 1 可能動詞「書ける」は「書き得る」から生じたか? (32)               |
|     | 2 スペイン語・ロシア語の中動態 (44)                        |
|     | 3 二段活用の語幹は xxx;u- か xxx;ur- か (131)          |
|     | 4 「居る wi-」は原動詞か (147)                        |
|     | 5 受影基 -(r)ar;e- と<br>可能動詞（下二活用助動詞ル・ラル） (165) |
|     | 6 原因基としての -(s)as;e- (助動詞セル・サセル) (177)        |
|     | 7 動詞「得（う）」の原動詞は「y-」か (185)                   |